

夜の浜辺で神秘的な産卵



1時間かかって、無事産卵を終えたアカウミガメ



珍しい話題などがあ
りましたら
ぜひ御連絡ください

卵の様子を見ることが日課となつた小野さんは、通常ふ化日数60日が過ぎてもふ化しない卵

子ガメの行進

潮騒の中でのお産は1時間ほどかかり、「クウツツ・クウツツ」とうめき声をたてながら、「ポトツ・ポトツ」と、100個近くの卵を産み落しました。涙を流しながら産む光景は、神秘的で感動のドラマだったそうです。やがて、大任を果し終えて海へ戻る後姿に「よくがんばったご苦労さま」と拍手で見送りました。

産卵は感動のドラマ

小野さんは夜釣りに出かけた6月23日、幸運にも産卵に遭遇したものです。甲羅の大きさが畳半量もあるアカウミガメで、海から上がると「ノツシ、ノツシ」と砂山に向かって歩き出し、約40メートルの所で、産卵準備の穴を後足で掘り始めました。

甲羅の大きさは畳半量

海水浴と釣人で賑わう屋形海岸に、海ガメが産卵に上陸。卵は無事ふ化し、子ガメは大海原へ——。産卵ショーから「2世誕生」までを観察した人がおられます。立会で商店を営む小野宏さんです。



色も大きさもピンポン玉そっくりの卵を手にする、観察者の小野さん

に、半ばあきらめきつていました。ところが、産卵71日目の9月2日の早朝、赤ちゃんの手のひらほどの子ガメが5匹仲良く海に向って「行進」を始めていました。思わず「でかしたぞ」と、我が子の誕生にも似た喜びを感じたそうです。その後も数匹ずつふ化し、40匹が大海原に帰って行きました。

珍しい体験、カメに感謝

「産卵からふ化」まで、観察し続けた小野さんは、「珍しい体験をさせてくれました。カメに感謝しています」と語り、子ガメ達の無事を祈るとともに、来年も産卵に来ることを心待ちにしています。



波打ち際まで行進した5、6センチの子ガメ達